

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
----	------------------------------------

施策	1 市民ニーズに合わせた学習機会の充実
----	---------------------

施策の目的	市と大学等との連携により市民の多様なニーズに応える学習機会を提供していきます。
-------	-----------------------------------------

評価責任者	所属	市民局 生涯学習推進課
	氏名	課長 宮城島 清也

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標である講座参加者満足度は83.5%と目標を下回ったが、大学公開講座の共催では大学等との連携により市民の多様なニーズに応える学習機会を提供できた。以上のことから評価をAとした。
	令和2年度	—	理由	—
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。

※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	講座参加者満足度	85.5% (2015～2017)	1	85%	83.5%	98.2%	a	H29年度施策評価シート作成時、受講生アンケート直近3カ年の実績の平均（84%）を参考に設定。なお、講座参加者以外の「市民ニーズ」については、各生涯学習施設に設置している生涯学習施設運営委員会（地域団体、学校、利用者団体等で組織）において意見把握を行い講座事業等に反映させている。講座参加者満足度の目標値85%は、平成27年度から平成30年度（過去4年）の満足度の推移から満足度としては上限レベルの値と判断する。
			2	85%	—	—	—	
			3	85%	—	—	—	
			4	85%	—	—	—	
		1						
		2						
		3						
		4						

指標以外の成果
市と大学との連携事業である「市民大学リレー講座」は5回の連続講座を開催し、延べ158人が参加した。連携事業の実施を通じて、市と大学の生涯学習に対する取組への理解が相互に深まっている。また、大学と生涯学習施設を所管する指定管理者との連携が進み、令和元年度の生涯学習施設と大学との共催講座数は30回、参加者数は延べ864人となり、市民に身近な生涯学習施設において高度で専門的な学習を求める市民ニーズに対応した事業を効率的に実施されている。

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
大学連携事業の推進	生涯学習施設等における大学との連携による高度で専門的な学習機会の提供 ①市民大学リレー講座 ②生涯学習施設・大学共催講座	1	1	412	0	263	0.3	0.2	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
 ※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	リカレント教育（社会人の学び直し）の視点を組み込むため、現役社会人（30代～40代）が参加し易い内容、時間、場所を検討する必要がある。	仕事終わりの現役社会人（30代～40代）をターゲットに設定し、平日夜間に静岡市の街中を会場に開催する。開催日を金曜日とすることでプレ金大学とも連携した講座とし現役社会人の参加を促進させる。リカレント教育を視野に入れたテーマを設定する。
令和2年度	—	—
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
----	------------------------------------

施策	2 未来を創る人材の養成
----	--------------

施策の目的	人口減少や少子高齢化の進展により、市民主体のまちづくりの重要性はより高まると同時に、地域活動の担い手が不足している状況は今後さらに深刻化することが見込まれます。そこで市民と行政との協働によるまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材の養成を行います。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価責任者	所属	市民局 生涯学習推進課
	氏名	課長 宮城島 清也

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「地域や社会のために行動した人（H30修了生）」の割合は目標を下回ったものの、地域コミュニティにおける「担い手不足」という大きな課題に対して、住民の負担を軽減するために行動を起こす修了生を輩出した。
	令和2年度	—	理由	—
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠	
	地域や社会のために行動した人の割合【人材養成塾（地域リーダー養成コース）】	1	83.3% (2017)	1	85.5%	70%	81.9%	b	政策4の指標②「学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合」をもとに施策2の指標に落とし込み、「（実際に）地域や社会のために行動した人の割合」とした。（H30.12.14ヘルプデスクでのアドバイス反映） ※地域リーダー養成コース（コミュニティコース／調査・実践編）修了生に対して、修了翌年度2月に調査実施
		2		86%	—	—	—		
		3		86.5%	—	—	—		
		4		87%	—	—	—		
	1		1						
	2		2						
	3		3						
	4		4						
	1		1						
	2		2						
	3		3						
	4		4						

指標以外の
 令和元年度の「地域デザインカレッジ2019（調査・実践編）」では14人の修了生を輩出。そのうち現役の町内会役員の方々は、町内の全組長に対するアンケートを行った上で地域活動の負担軽減に取り組み始めた。また、平成30年度の修了生は自治会と連携し、高齢者の一人での外出や家具の移動等の日常生活をサポートするボランティアグループを結成し、支え合いの活動をはじめると実際に修了生が地域で活躍している。「高校生まちづくりスクール（ビジネス編）」は定員15人を超える22人が受講・修了し、地域に目を向ける機会の少ない高校生に、地域や社会のために行動していきたいという意識を醸成することができた。

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
人材養成塾（地域リーダー養成コース）	地域やまちづくりを担う人材を養成する講座の開催 ①地域デザインカレッジ2019（基礎編） ②地域デザインカレッジ2019（調査・実践編）	1	1	4,842	0	3,903	1.5	0.2	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
人材養成塾（高校生地域人材養成コース）	高校生の地域社会への参加を促し、これからのまちづくりの担い手として育成する講座の開催 ①高校生まちづくりスクール（ビジネス編）	2	1	782	0	705	0.5	0.2	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
 ※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	受講生（修了生）の減少（地域リーダー養成コース） ※修了生数 平成30年度：17名 ⇒ 令和元年度：14名	地域コミュニティ活動に関わる方を対象とした公開講座の開催等により、講座のターゲットとなる層に対するアプローチを強化する（地域リーダー養成コース）
令和2年度	—	—
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
----	------------------------------------

施策	3 生涯学習に親しむ環境整備
----	----------------

施策の目的 静岡市生涯学習施設の配置適正化方針に基づき、生涯学習施設がより一層充実した地域の生涯学習活動やまちづくり活動の拠点となるよう、老朽化し耐震性の劣る施設について、市民参画により地域の意見が反映された施設整備計画を策定し、市民が安全・安心・快適に利用できる施設として整備する。

評価責任者	所属	市民局 生涯学習推進課
	氏名	課長 宮城島 清也

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	耐震性の劣る施設について、計画通り確実に解消することができており、耐震化率も徐々に上がっている。
	令和2年度	—	理由	—
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	生涯学習施設の耐震化率		82% (2018)	1	87.1%	87.1%	100.0%	a
2				89.7%	—	—	—	
3				97.4%	—	—	—	
4				100%	—	—	—	
			1					
			2					
			3					
			4					
指標以外の			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
飯田生涯学習交流館建設事業	①実施設計 ②建設工事 ③開館準備 ④令和3年7月 供用開始 ⑤令和3年度 既存施設解体	1	1	165,553	0	36,017	1.5	0.1	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
辻生涯学習交流館耐震補強事業	①耐震補強工事 ②令和2年3月 供用開始	2	1	208,500	0	203,314	0.8	0.0	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
船越生涯学習交流館建設事業	①基本構想 ②基本・実施設計 ③仮設事務所用地賃借、仮設事務所建設 ④令和3年 既存施設解体、建設工事 ⑤令和5年7月 開館準備、供用開始	3	1	3,000	0	2,722	0.7	0.0	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
折戸生涯学習交流館耐震補強事業	①実施設計 ②耐震補強工事 ③令和3年4月 供用開始	4	1	15,323	0	12,980	0.7	0.0	0.0	○
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
高部生涯学習交流館	①令和4年 基本構想 ②令和4年 敷地測量、地質調査、基本・実施設計 ③令和5年 建設工事 ④令和6年7月 開館準備、供用開始 ⑤令和6年 既存施設解体	5	1	—	—	—	—	—	—	
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
 ※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	高部生涯学習交流館については、移転計画を所管している企画課にて計画が未確定のため、令和4年度までの目標達成が不明確	令和4年度までに、耐震ランクを上げるための「簡易補強工事」にかかる、可能性調査委託等による対応を検討予定
令和2年度	—	—
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—